

いのししを放した話^{はな}

鹿児島県

むかし、ある男の人が、山へ薪^{まき}を拾いに行ったんだって。すると、そこへ、大きないのししが出て来た。男の人は、生け捕^{いんど}りにしてやろうと思って、いのししのしっぽをつかまえたんだって。いのししは、逃げようと思って、ばたばたあばれた。でも、男の人は、しっぽをしつかりにぎって放さない。いのししはあばれる。男の人は放さない。いのししはあばれる。男の人は放さない。

こんな話、おもしろくないね。もう話すのやめようか。

・・・(聞き手) ううん、話してちょうだい。

そんなら話そうか。

・・・(聞き手) うん、話して。

そら、放した！

あんたたちが放せとிட்டんで、つかまえていた手を放したよ。いのししは、もうどこへいったか、わかるもんか。

おしまい

村上郁再話

資料『昔話研究第2巻第10号』「奄美大島昔話」岩倉一郎／民間伝承の会